

18 いちじく

(1) 生産目標

品種・系統	10a当たり収量	精果率	目標果実重	糖度
柘井ドーフィン	2,500kg	90%以上	100～130g/1果当り	14度以上
蓬菜柿	2,000kg	95%以上	100g以上/1果当り	16度以上

(2) 経営指標及び労働時間

経営指標（10a 当たり）

① 出荷量（kg）	2,250
② 販売単価（円）※	733
③ 粗収益（円）	1,649,250
④ 生産費（円）	1,361,141
⑤ 利潤（円）	288,109

※ 平成22年～令和元年の平均単価

ア 販売単価の推移

（単位：kg 当たり円）

年次	H22	23	24	25	26	27	28	29	30	R1
単価	631	732	638	640	924	1,059	679	669	700	661

（H30 まで：全農山口扱い、R1：JA山口県扱い）

イ 生産費の内訳（単位：10a 当たり円）

費用	金額	備考
肥料費	43,507	労働費は家族労賃と雇用労賃を含む
農業薬剤費	24,405	
光熱動力費	9,632	
諸材料・小農具費	83,729	
建物・施設修繕費	5,434	
労働費	308,616	
減価償却費	400,744	
販売費用		
賃借料・料金	12,500	
包装資材費	175,000	
運賃	93,750	
手数料	178,750	
管理費用		
負債利子	23,774	
一般管理費	1,300	
合計	1,361,141	

ウ 投下労働時間（10a 当たり）

(ア) 月別労働時間

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
10.0	77.5	6.0	14.5	18.5	7.0	10.5	73.0	147.0	64.0	16.0	18.0	462.0

(イ) 作業別労働時間

整枝 せん定	施肥 土壌改良	ビニール 被覆等	ハウス 管理	新梢 管理	防除	収穫	調整	出荷	その他	計
36.0	10.0	68.0	21.0	17.0	8.0	88.0	129.0	58.0	27.0	462.0

(3) いちじく重点指導事項

事 項	推 進 内 容
1 無加温ハウス栽培の導入	<p>無加温被覆栽培により、熟期を促進させると同時に、成熟期の降雨の影響を防ぎ、収量と精果率を高める。</p> <p>1 品種と仕立て</p> <p>(1) 柵井ドーフィン、蓬莱柿とも一文字整枝法による。</p> <p>(2) 植栽間隔は柵井ドーフィンで3~4m×1.8~2m、蓬莱柿は樹勢が強いため、6~8m×2~2.5mとする。</p> <p>(3) 排水対策を兼ねて樹勢調節のため、蓬莱柿では必ず畝立て栽培とする。</p>
2 無加温ハウス栽培における温湿度管理の徹底	<p>1 被覆開始は1月下旬から2月下旬を目安にする。</p> <p>2 晩霜に対しては、小トンネル及び保温器具で対策を講じる。</p> <p>3 被覆栽培においては下位節の確保が重要なので、飛び節を防ぐために被覆下の室温が30℃以上にならないように換気をする。</p> <p>4 室内湿度は発芽までは高くし(90~80%)、その後湿度を徐々に下げ、着果始め頃60%位を目安とする。</p> <p>5 耐湿性が弱く、水分要求量は大きいので排水とかん水に留意する。</p>
3 下部位節果実の着果・品質向上	<p>1 下位節の果実ほど着色ムラが出易いので、結果枝の密生をさける。</p> <p>2 結果枝の摘芯後に発生する腋芽は随時かぎとるが、新梢先端部から発生する芽は2~3葉残し摘芯する。</p> <p>3 下部節位の着色向上及びアザミウマ類の防除を兼ね、5月中旬より反射シートをマルチする。</p> <p>4 貯蔵養分の不足、チッソ過多及びチッソの遅効き、強樹勢は1番果着生を妨げるので注意する。</p>
4 病虫害防除	<p>1 サツマイモネコンブセンチュウ対策</p> <p>(1) 植え付け前に苗木をよく厳選し、ほ場へ持ち込まない。</p> <p>(2) 更新時には、少なくとも1~2年の水田化でセンチュウ密度を下げる。</p> <p>(3) 完熟堆肥で土壌環境を改善し、樹勢を保つことで耐虫性を高める。</p> <p>2 株枯病対策</p> <p>(1) 発生ほ場からの苗木持ち込み及び採穂は絶対に行わない。</p> <p>(2) 発生ほ場では、5~10月に月1回株元に薬剤かん注する。</p> <p>(3) 多発ほ場では、1~2年水田にし、菌が検出されなくなって栽培を再開する。</p> <p>(4) 抵抗性台木としては、イスキアブラック、ネグローネがある。</p>

(4) いちじく作業

ハウス栽培

月	旬	生育状況	温湿度管理の 目安	作業名	作業の内容	
12 ～ 1 月	下	休眠期		整枝・せん定 園内整備 ハウスビニール被覆	一文字整枝で結果母枝を10a当たり2,400～2,500本確保する。 ハウス周辺の排水溝、防風垣などの整備をする。 外張り後、内張り及び小トンネルで被覆し保温に努める。ビニール被覆後は十分にかん水し、発芽までは樹体かん水も行う。	
2 月		根の活動開始	温度 湿度 昼間25 80～90	保温管理	日中の高温と夜間の保温に注意するとともに、低温に対しては保温器具を準備する。	
3 月	下	発芽展葉期	～30℃3 5℃にし	芽かぎ	極端に強い枝、弱い枝を芽かぎし新梢の生育を揃える。できるだけ母枝基部より結果枝をとるようにする。	
4 月	上 中 下	新梢伸長期 着果期	ない。 夜間は 保温	70～80 % 60%	小トンネル除去 追肥 マルチ被覆 枝の誘引	小トンネルを除去しマルチ被覆する。 施肥基準のとおり 枝の強弱により誘引角度を変え、伸長程度を揃えるようにする。
5 月	上 中 下	果実肥大期	サイド開放	副梢の整理 反射シートマルチの被覆	下位節の着色向上及びアザミウマ類の防除のため反射マルチを敷く。	
6 月	上 中 下			追肥 摘芯 排水対策	施肥基準に基づき年間施肥量の30%を施す。 果実の肥大を一斉に揃え、熟期を促進するため18～20節で摘芯する。 梅雨時期はハウス内に水が流れ込まないように、周囲に排水溝などを整備する。	

7 月	上 中	果実成熟開始 (梣井ドーフィン)		芽 か き 収 穫	結果枝の摘芯後に発生する芽は随時かぎとる。 ゴム手袋をして果実を指で軽く持ち上げるようにし、果実温の低い時間帯に収穫する。収穫の目安は着果後80日程度である。
8 月	上 中 下	果実成熟開始 (蓬萊柿)		収 温 度 管 理 台 風 対 策	ハウスの温度をできるだけ下げるよう換気扇の稼働や、高温時には天井ビニールを巻き上げるなどの対策をとる。 防風施設の整備・点検やハウスの補強を行い台風に備える。
9 月	上 中 下	秋根の伸長期		収 穫 終 了 (梣井ドーフィン) 礼 肥	施肥基準に基づき年間施肥量の20%を施す。
10 月	下			収 穫 終 了 (蓬萊柿) ハウスビニール除去	
11 ～ 12 月	下		落 葉 期	落 葉 処 理 元 肥	落葉はハウス外に持ち出し処分する。 堆肥、改良資材も合わせて施用する。
			休 眠 期	寒 害 対 策 (幼木のみ)	1,2年生の幼木は早めにせん定してわら等を巻いて防寒する。主枝の誘引、結束は水が回って枝が曲がりやすい2月以降に行う。

露地栽培（蓬莱柿）

月	旬	生育状況	作業名	作業の内容
4月	下	発芽展葉期	芽かぎ	極端に強い枝、弱い枝を芽かぎし新梢の生育を揃える。できるだけ母枝基部より結果枝をとるようにする。
5月	中	新梢伸長期	枝の誘引	枝の強弱により誘引角度を変え、伸長程度を揃えるようにする。
6月	中	着果期 果実肥大期	追肥 排水対策	施肥基準に基づき年間施肥量の20%を施す。 梅雨時期は、周囲に排水溝などを整備する。
7月	中		摘芯	果実の肥大を一斉に揃え、熟期を促進するため18～20節で摘芯する。
8月	上 中		台風対策 芽かき	防風施設の整備・点検やハウスの補強を行い台風に備える。 結果枝の摘芯後に発生する芽は随時かぎとる。
9月	上	果実成熟開始	収穫 追肥	ゴム手袋をして果実を指で軽く持ち上げるようにし、果実温の低い時間帯に収穫する。 施肥基準に基づき年間施肥量の20%を施す。
10月	下		収穫終了	
11月 ～ 12月		休眠期	整枝・せん定 元肥 落葉処理 園内整備 寒害対策 (幼木のみ)	施肥基準に基づき年間施肥量の60%を施す。堆肥、改良資材も合わせて施用する。 落葉は持ち出し処分する。 排水溝、防風垣などの整備をする。 1,2年生の幼木は早めにせん定してわら等を巻いて防寒する。主枝の誘引、結束は水が回って枝が曲がりやすい2月以降に行う。

(5) 施肥基準

ア いちじく（無加温ハウス・柵井ド-フィン成木）10a 当たり施用量 （ ）は蓬莱柿

施肥時期	時期別割合(%)			成分量(kg)			施肥上の注意
	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	
元肥 (12月中旬)	45 (36)	61 (58)	23 (18)	6.8 (4.8)	6.6 (5.8)	3.2 (2.4)	(1)成木園10a当たり収量は柵井ド-フィンで2,500kg園、蓬莱柿で2,000kg園を基準とする。 (2)12月中旬に元肥とあわせ堆肥を施用する。 (3)ハウス10a当たり125本植えとする。(4×2m)
追肥(4月上旬)	34 (39)	20 (22)	21 (23)	5.2 (5.2)	2.2 (2.2)	3.0 (3.0)	
追肥(6月上旬)			36 (38)	—	—	5.0 (5.0)	
礼肥(9月上旬)	21 (24)	19 (20)	20 (21)	3.2 (3.2)	2.0 (2.0)	2.8 (2.8)	
計	100 (100)	100 (100)	100 (100)	15.2 (13.2)	10.8 (10.0)	14.0 (13.2)	

イ いちじく（幼木）10a 当たり樹齢別施用成分量(kg)

樹 齢	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	施肥上の注意
1年生	2	1	2	
3年生	4	3	4	
5年生	8	6	8	

ウ いちじく（露地・蓬莱柿成木）10a 当たり施用量

施肥時期	時期別割合(%)			成分量(kg)			施肥上の注意
	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	
元肥(12月上旬)	60	80	40	9.4	16.2	6.6	(1)成木園で10a当たり収量は2,000kgを基準とする。 (2)12月上旬に元肥とあわせ堆肥を施用する。
追肥(6月中旬)	20	10	45	3.1	2.0	7.5	
追肥(9月上旬)	20	10	15	3.1	2.0	2.5	
計	100	100	100	15.6	20.2	16.6	

(6) いちじく品種特性表

品種・系統名	原産地及び来歴	果実の特性	樹の特性	栽培上の注意事項	収穫期
榊井ドーフィン	米国カリフォルニア州 広島県 榊井光次郎氏 明治42年導入	果実は夏果は150g、秋果は100g程度、果形は長卵円形で果皮は紫褐色でやや薄い。 果粉も多く、果肉は桃色で肉質は粗く、甘味少なく、品質は中程度である。	樹勢は中庸で枝は下垂しやすく、開張性である。 葉の大きさは中程度で五裂のきれこみが深い。	疫病の発生が多いので防除の徹底をはかる。 耐寒性は弱いので幼木期では防寒する。	8月中旬～10月下旬
蓬 菜 柿	わが国原産か渡来品種か明らかではないが、貝原益軒によると寛永年間(1624～1643)に輸入されたと記されている。	果実は60～70g、短円形で果頂部はほとんど平らである。 果皮の陽光面は赤紫色、果肉は鮮紅色、肉質は粗く、粘質に欠く、甘味は中ぐらい。 果実は、成熟が進むと果頂部が裂開するため完熟の1～2日前に収穫する。	樹勢はきわめて強く、枝梢は直立性を示し、枝の発生が多い方で大樹となる。 葉は非常に大きく、浅い三裂の切れこみがある。耐寒性は強い。	熟期は榊井ドーフィンと比べると遅く、10月に最も収量が多い。 樹勢が強いため木が落ち着かず結果年齢に入るのが遅れる。 栽植距離を充分にとり、一般に樹形は開心形に仕立て、せん定も軽くする。	9月上旬～11月上旬